

2021 年度目標達成状況報告書（デザイン研究科）

*自己評価は「S・A・B・C」の4段階で「S：十分満たしている、A：満たしている、B：概ね満たしている、C：満たしていない」

No.	評価基準		
1	年度目標	大学院デザイン研究科設置計画の検証と改善 1. 研究指導体制の確立（複数教員による研究指導が効果的に行えるように運営を行なったか）	
	年度末報告	研究科の自己点検 WG による点検・評価	
		自己評価	B
		理由	中間発表・期末発表などの機会、主担当以外の教員による研究指導を行えたが、その都度研究の進捗についても、複数教員がより積極的に関わられる運営の検討が課題である。
改善策	科目を通した一定の関わり方ではなく、年次進行で計画された研究進捗の段階に合わせ、主担当とそれ以外の教員の関わり方を柔軟に設定することで、より効果的な運営をはかる。		
No.	評価基準		
2	年度目標	大学院デザイン研究科設置計画の検証と改善 2. 研究活動の維持と推進（感染によって留まることなく学生の研究活動を維持し、積極的に進められるように運営を行なったか）	
	年度末報告	学部の自己点検 WG による点検・評価	
		自己評価	B
		理由	状況に合わせ、対面・遠隔・オンラインツールを効果的に使いながら個々の研究活動の維持と推進はできたが、学生間の研究を介したコミュニケーションや学外での発表など、自身の研究を客観的に分析する機会の促進が課題である。
改善策	学内でのポスター展示や学生間のディスカッションの機会を積極的に設けたり、学会等、学外での発表を促進したりすることで、より広い視野に基づいた研究の維持と推進をはかる。		
<p>【年度目標達成状況総括】</p> <p>完成年度を終えたことをふまえ、これまで2年間の設置計画の運営内容の検証と改善を方針として掲げたものの、この1年は、新型コロナウイルス感染症による教育と研究活動を問題なく継続させることに重点を置き、運営をしながら研究の効果的な複数教員体制の運用方法を模索したに留まったと言える。しかしこの1年での実際の運用は、概ね目標を満たしており、うまく機能していない部分の原因を探り、また直接教員や学生からも意見などを聞いたことで状況をふまえた改善策も検討できた。したがって次年度に向けて具体的な改善・改良への道筋を計画し、より効果的な実施、運用ができればと考えている。</p>			

【2021 年度目標の達成状況に関する大学評価】（自己点検評価委員会）

年度目標 2 件に対し概ね達成されている。改善の余地のある項目については引き続き検討してほしい。